

評価指標

平成28年輸血状況調査結果

評価指標 (5項目)	300床以上 回答率:95.3% (回答有:82病院/調査対象:86病院)					100床以上300床未満 回答率:93.3% (回答有:111病院/調査対象:119病院)				
	平成27年	平成28年	※1		医療種別(★) + 三次救急(★) (26病院)	平成27年	平成28年	医療種別 (○) (11病院)	医療種別使用 量を控除した場 合	医療種別 (★) (100病院)
			医療種別(○) 又は 三次救急(○) (56病院)	※2 医療種別使用 量を控除した 場合						
①輸血療法委員会設置 (設置率) (設置医療機関数)	100% 88病院	100% 82病院				94.5% 103病院	93.7% 104病院			
【評価指標の考え方】医療機関における輸血療法に関する評価・検討を行うため、輸血療法委員会の設置率の向上を図る。										
②血漿製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	0.43	0.42	0.44	0.44	0.33	0.18	0.16	0.25	0.25	0.15
【評価指標の考え方】循環血漿量補充、蛋白源としての栄養補給等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対する血漿製剤の使用量比率を下げる。										
③アルブミン製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	1.51	1.44 1.38	1.49 1.41	1.45 1.41	1.20	1.12	1.18 1.12	1.96 1.58	1.77 1.58	1.03
【評価指標の考え方】蛋白源としての栄養補給、末期患者への投与等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										
④(血漿製剤+アルブミン製剤) /赤血球製剤 (使用量比率)	1.93	1.86 1.80	1.93 1.85	1.89 1.85	1.54	1.31	1.35 1.28	2.22 1.83	2.03 1.83	1.18
【評価指標の考え方】アルブミン製剤及び血漿製剤の使用総量を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤と血漿製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										
⑤アルブミン製剤の国内 献血由来製品の使用割合 (g換算)	61.4%	60.9%				75.0%	74.2%			
【評価指標の考え方】法律に基づく国内自給達成に向け、輸入への依存度の高いアルブミン製剤における国内献血由来製剤の使用割合の向上を図る。 ※アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										

◎廃棄率について

廃棄率	300床以上 (回答率:95.3%) (回答数:82病院/調査対象:86病院)				100床以上300床未満 (回答率:93.3%) (回答数:111病院/調査対象:119病院)					
	平成27年	平成28年	医療種別(○) 又は 三次救急(○) (56病院)		医療種別(★) + 三次救急(★) (26病院)		平成27年	平成28年	医療種別 (○) (11病院)	医療種別 (★) (100病院)
			医療種別(○) 又は 三次救急(○) (56病院)	医療種別(★) + 三次救急(★) (26病院)						
全血製剤廃棄率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
赤血球製剤廃棄率	1.6%	1.6%	1.3%	3.0%	4.7%	5.0%	3.5%	5.3%		
血漿製剤廃棄率	1.2%	1.3%	1.2%	2.0%	4.8%	6.9%	5.5%	7.5%		
血小板製剤廃棄率	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%	0.4%	0.6%		
全製剤合計廃棄率	0.9%	0.8%	0.7%	1.5%	3.1%	3.7%	2.7%	3.9%		

注釈

※1 医療機関の分類方法について

- ・医療種別(○)・・・調査において「医療種別」項目に回答のあった(「血漿交換療法」または「生体肝移植」を実施していると回答のあった)医療機関
- ・医療種別(★)・・・調査において「医療種別」項目に回答のなかった医療機関
- ・三次救急(○)・・・三次救急を実施している医療機関
- ・三次救急(★)・・・三次救急を実施していない医療機関

※2 「医療種別使用量を控除した場合」とは、調査において回答のあった「血漿交換療法」または「生体肝移植」での製剤使用量の1/2を、全体の使用量から控除して算出した指標数値を指す。

※3 各指標の計算式は、裏面のとおり。

「輸血管理料算定基準」に準じた計算式により算出した指標数値を指す。

(網掛け部分は平成28年度診療報酬改定に対応した計算式で算出)

評価指標の計算式

評価指標 (5項目)		300床以上 回答率:95.3% (回答者: 病院 / 調査対象: 病院)				100床以上300床未満 回答率:93.3% (回答者: 病院 / 調査対象: 病院)				
		平成27年	平成28年	※1 医療機関(O) 又は 三次救急(O) (病院)	※2 医療機関使用 量を控除した 場合 医療機関(O) + 三次救急(O) (病院)	平成27年	平成28年	医療機関 (O) (病院)	医療機関使用 量を控除した場 合 医療機関(O) (病院)	
①輸血療法委員会設置 (設置率) (設置医療機関数)	100%				94.5%					
	88病院				103病院					
【評価指標の考え方】 医療機関における輸血療法に関する評価・検討を行うため、輸血療法委員会の設置率の向上を図る。										
②血漿製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	0.43	A	A	C	A	0.18	A	A	C	A
【評価指標の考え方】 循環血漿量補充、蛋白源としての栄養供給等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対する血漿製剤の使用量比率を下げる。										
③アルブミン製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	1.51	D	D	C'	D	1.12	D	D	C'	D
【評価指標の考え方】 蛋白源としての栄養供給、末期患者への投与等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										
④(血漿製剤+アルブミン製剤) /赤血球製剤 (使用量比率)	1.93	B	B	C	B	1.31	B	B	C	B
【評価指標の考え方】 アルブミン製剤及び血漿製剤の使用量を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤と血漿製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										

上段: 従来の計算式
下段: 新計算式(網掛け部分)

～27年調査計算式		(新)平成28年診療報酬改定対応計算式	
A	$\frac{\text{（血漿製剤総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血}}$		変更なし
B	$\frac{\text{（血漿製剤総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）＋アルブミン総使用量}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血}}$	b	$\frac{\text{（血漿製剤総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）＋（アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血}}$
C	$\frac{\text{（血漿製剤の総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血－（「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤／2）}}$	c	$\frac{\text{（血漿製剤の総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血－（「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤）}}$
C'	$\frac{\text{（アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン／2）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血－（「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤／2）}}$	c'	$\frac{\text{（アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血－（「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤）}}$
C''	$\frac{\text{（血漿製剤の総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）＋（アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン／2）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血－（「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤／2）}}$	c''	$\frac{\text{（血漿製剤の総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2）＋（アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン）}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血－（「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤）}}$
D	$\frac{\text{アルブミン総使用量}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血}}$	d	$\frac{\text{アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン}}{\text{赤血球製剤＋全血＋自己血}}$

【参考】評価指標等 病床別詳細

平成28年輸血状況調査結果

	調査回答病院数	使用量(単位換算)									※ 評価指標②～④			製剤別廃棄率												
		赤血球製剤 (全血製剤・自己血輸血含む)					血漿製剤		アルブミン製剤		② 血漿製剤 / 赤血球製剤	③ アルブミン 製剤 / 赤血球製剤	④ 血漿製剤 + アルブミン 製剤 / 赤血球製剤	廃棄率 項目 回答 病院 数	全血製剤			赤血球製剤			血漿製剤			血小板製剤		
		病院 使用 数	赤血球 製剤	全血 製剤	自己 血輸 血	合計 値	病院 使用 数	合計 値	病院 使用 数	合計 値					購入 量	廃棄 量	廃棄 率	購入 量	廃棄 量	廃棄 率	購入 量	廃棄 量	廃棄 率	購入 量	廃棄 量	廃棄 率
1000床以上	6	6	100,533.0	0	7,048.5	107,581.5	6	67,600.0	6	220,743.0	0.57	1.91	2.49	6	0	0	-	100,604.0	851.0	0.8%	68,782.0	633.0	0.9%	221,101.0	1,180.0	0.5%
700～999床	13	13	154,116.0	0	11,783.5	165,899.5	13	85,173.0	13	263,021.7	0.46	1.51	1.98	13	0	0	-	156,215.0	1,931.0	1.2%	87,728.0	807.0	0.9%	413,357.0	1,211.0	0.3%
500～699床	15	15	102,135.0	0	6314.3	108,449.3	15	43,063.0	12	94,342.5	0.35	0.83	1.18	15	0	0	-	103,006.0	912.0	0.9%	43,798.0	724.0	1.7%	241,086.0	391.0	0.2%
400～499床	19	19	68,415.0	0	7705.3	76,120.3	19	27,050.0	18	105,420.7	0.32	1.37	1.69	19	0	0	-	70,050.0	1,536.0	2.2%	27,451.0	442.0	1.6%	99,674.0	495.0	0.5%
300～399床	29	29	80,023.0	0	12439.9	92,462.9	29	32,775.0	28	108,428.3	0.33	1.15	1.48	29	0	0	-	82,828.0	2,753.0	3.3%	33,433.0	723.0	2.2%	136,010.0	565.0	0.4%
200～299床	28	27	42,574.0	0	5696.5	48,270.5	25	11,556.0	26	76,693.3	0.23	1.46	1.69	27	0	0	-	44,236.0	2,135.0	4.8%	12,446.0	642.0	5.2%	24,810.0	170.0	0.7%
100～199床	83	75	50,076.0	0	2728.8	52,804.8	58	5,515.0	73	42,793.1	0.10	0.81	0.91	66	0	0	-	48,011.0	2,500.0	5.2%	5,674.0	614.0	10.8%	35,007.0	165.0	0.5%
50～99床	114	104	36,984.0	0	2414.1	39,398.1	49	7,247.0	88	41,880.2	0.18	1.06	1.25	97	0	0	-	35,472.0	1,243.0	3.5%	7,495.0	251.0	3.3%	17,324.0	160.0	0.9%
50床未満	242	147	20,762.0	0	1276.5	22,038.5	32	5,363.0	90	23,342.0	0.22	1.06	1.28	128	0	0	-	17,794.0	619.0	3.5%	4,656.0	94.0	2.0%	11,015.0	10.0	0.1%
使用量・合計	549	435	655,618.0	0	57,407.4	713,025.4	246	285,342.0	354	976,664.7	0.37	1.31	1.68	400	0	0	-	658,216.0	14,480.0	2.2%	291,463.0	4,930.0	1.7%	1,199,384.0	4,347.0	0.4%

※ 評価指標②～④は、「赤血球製剤:全血製剤と自己血輸血分を含む」値、「血漿製剤:血漿交換療法で使用した血漿製剤量の1/2を差し引いた」値、「アルブミン製剤:血漿交換療法で使用したアルブミン製剤量を差し引いた」値。